

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研究名称	DPP4 阻害薬による腎性貧血改善の可能性
氏名	星野 純一
所属機関	虎の門病院 リウマチ膠原病科
<p>背景：近年使用頻度の増している Dipeptidyl peptidase-4 阻害薬（以下 DPP4i）には抗炎症効果・骨髄刺激効果を有することが報告されているが、透析例において同様な効果を有するかは明らかでない。</p> <p>対象：わが国で糖尿病を有し、1年以上経過観察が可能であった 87,830 例を研究対象とした（研究利用許可を得た上で、2012, 2013 年の日本透析医学会データベースを用いた）。</p> <p>結果：DPP4i 使用例の平均 Hb 値は、非使用例に比べて有意に高かった（Hb 10.74 ± 1.20 vs 10.67 ± 1.23 g/dl, $p < 0.001$）（Table 1）。この傾向は他の血糖降下薬併用によらず同様であった。その他の諸交絡因子*にて補正後も Hb 値が有意に上昇していた（Hb 値で $0.044(0.017-0.070)$ g/dL, $p=0.001$）（*補正交絡因子：年齢・性別・透析歴・Body Mass Index・喫煙歴・アルブミン・TSAT・フェリチン・CRP・平均血糖（標準化 HbA1c/ Glycoalbumin）・ESA 製剤使用量・血管系合併症・インスリン・OHA・降圧剤使用）。</p> <p>DPP4i 使用に関するセレクションバイアスを最小化するため、傾向スコア (PS) 法および inverse probability weighting (IPW) 法を用いて解析を進めた。DPP4i 使用の Hb に与える Average treatment effect (ATE) は、炎症関連因子 (Albumin, ESA dose, TSAT, ferritin, CRP) をマッチングから除いた場合は PS 法で $0.046(0.014, 0.078)$、IPW 法で $0.037(0.010, 0.065)$ と有意に高かった。一方炎症関連因子をマッチングに含めた場合、両者の関連性は減弱した（PS 法で $0.034(-0.008, 0.077)$、IPW 法で $0.024(-0.013, 0.060)$）。</p> <p>結語：DPP4i 使用は僅かではあるが、透析患者における Hb 高値に有意に関連していた。この関連性は諸因子補正後も同様であったが、炎症関連因子を加味すると減弱することから、DPP4i による貧血改善効果は DPP4i の抗炎症効果によってもたらされる可能性が示唆された。</p>	